## アリマタヤのヨセフ

マタイによる福音書 27:1-61



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023 年 4 月 2 日 復活前主日

上野聖ヨハネ教会にて

今朗読したマタイ福音書第27章は、この日の夜明けから始まりました。

「夜が明けると、祭司長たちと民の長老たち一同は、イエスを 殺そうと相談した。」27:1

そして十字架にかけられたイエスは、午後3時頃、息を引き取られました。

「しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた」と、 50 節に書かれていたとおりです。

そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、「本当に、この人は神の子だった」(27:54)という声が聞こえました。やがて、時が経つにつれて、集まっていた人々は解散し、あたりは静寂に包まれます。すべてが終わったかのようですが、イエスは十字架にかけられたままです。このまま放置されるのでしょうか。

実はここから、この夕方から新しい何かが始まります。こう 書かれていました。

「夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。」27:57

アリマタヤのヨセフ。彼もイエスの弟子でした。しかしその ことをずっと隠していました。イエスの弟子だというので、非 難されたり迫害されたりするのがこわかったのです。彼はユダ ヤ人の議会、最高法院の議員で、社会的地位のある人でした。

イエスが十字架につけられ、ついに息を引き取られたとき、 彼はどこにいたのでしょうか。体をこわばらせて、隠れるよう に家にこもっていたのかもしれません。人には隠していたけれ ども、尊敬してやまないイエスが、愛してやまないイエスが、 十字架につけられて殺された。自分は危ないところから身を避 けた。悔いても嘆いても取り返すことはできません。身動きも できず、悲しみと自責の思いで一日を過ごしました。今もイエ スは十字架にかけられたままなのだろうか。

ふと足が動いて、立ち上がりました。イエスのところに行く。 イエスのご遺体を葬る――そのような思いが強く起こってきて、 アリマタヤのヨセフはゴルゴタの死刑場に出かけて行きました。

「この人がピラトのところに行って、イエスの遺体を渡してくれるようにと願い出た。」27:58

これは危険な行動でした。イエスは神への冒瀆者、またローマ帝国に対する反逆者として死刑になったのです。イエスの遺体を引き取るなどというのは、自分がイエスの親密な仲間であり弟子であることをあらわにすることです。けれどもヨセフは、そうせずにはいられませんでした。自分がこれをしなければならないという決意が起こっていました。何か不思議な力が働い

ているのでしょうか。

げるのです。

ピラトの許可を得て、彼はイエスの体を十字架から下ろしました。そしてイエスの体を用意してきた亜麻布に包みました。 「きれいな亜麻布」(27:59) と書いてあります。「きれいな亜麻布」。まっさらの、清らかな布。この布にヨセフの気持ちがこめられているに違いありません。もう遅い。遅すぎるけれども、せめて今、自分は精一杯の純粋な心で、イエスを包んで差し上

そして彼はイエスの遺体を「岩に掘った自分の新しい墓の中 に納め」(27:60) ました。

「自分の新しい墓」と書いてあります。自分が入るはずの墓です。これほどまでに彼は、イエスと一緒になりたい、一緒にいたいのです。イエスとともに、古い自分を葬ってしまおう。人を恐れ、非難と迫害を恐れて身の安全を図ってきた自分を葬る。地位と財産に頼り、それをひそかに誇ってきた古い自分を葬って、愛するイエスとともに生きて死ぬ。それが今、彼の願いであり決意です。

マルコによる福音書はアリマタヤのヨセフについて、「**この人 も神の国を待ち望んでいたのである**」(15:43) と記しています。 イエスは神の国を宣べ伝え、神の国のために生きて死なれま した。

今、神の国の温かな光がアリマタヤのヨセフを照らしていま す。ヨセフの新しい生涯が始まっています。

十字架に死なれたイエスが、ご自身のかぎりない愛をもって、 彼を引き寄せられた。そして彼はそれに応えたのです。

祈ります。

主イエスさま、あなたがアリマタヤのヨセフを愛して、彼を みもとに引き寄せられたように、わたしたちをあなたのもとに 引き寄せてください。あなたの十字架の死が古いわたしたちを 終わらせ、あなたの復活がわたしたちを新しい命に生かしてく ださいますように。尊いあなたのみ名を賛美します。アーメン